

文化的景観を保全する意義

蘭島（あらぎ島）を中心とした文化的景観は、眺望場所が極めて限定的であり、その景観は一定の距離を持った見下ろしの景観となります。展望所から眺める風景は、単に蘭島だけではなく、その周囲や背後には山林や河川をはじめ、棚田や水路、集落や民家、さらには水力発電施設やバイパス道など、中山間の農村全体を俯瞰するような多様な背景を伴った一体性のある景観となっています。その景観には、度重なる自然災害と向き合い、何千年にもわたり絶え間なく繰り返されてきた人々の営みが生み出した各時代の要素が調和した姿があります。

蘭島を中心とした文化的景観は、決して広大な景観ではありませんが、蘭島が扇状のユニークな形状をしており、小規模で景観的なまとまりがあるため、農村景観の全体を一望して感じやすい、楽しみやすい環境を有していることが蘭島の棚田景観の最大の特徴となっています。

文化的景観の保護は、単なる棚田の姿を保全するのではなく、棚田と人々の生活が結びついた関係性を保全していくことです。蘭島の景観を通して「棚田や文化的景観を保全する意味」を多くの人々に問い直し、知ってい

ただくこと、それが可能な環境を有する蘭島の文化的景観を保全する意義は、決して少なくないと考えられます。

